

36年前に開催された石川インターハイ当時、石川県代表として出場し、今回指導者として再び地元開催のインターハイに出場することになった先生方にお話を伺いました。

【金沢桜丘高等学校・小田哲生（おだてつお）先生】

金沢桜丘高校から県個人チャンピオンとなり、インターハイに出場。



①高校時代の思い出は？

毎日朝練から始まり、休日はOBの先輩方に鍛えていただきました。高校3年生を迎える春休みには、2週間全部九州遠征でした。今思えば羨ましい経験をさせてもらっていましたが、当時はきつと感じることもありました。

②インターハイに関しての思い出は？

当時のインターハイは石川県で全競技が開催されたので、今回よりももっと県全体で盛り上げようという空気でした。剣道競技は中学校から強化が始まり、何度も招集され、高校の先生方に合宿などで指導をしていただきました。他の選手よりも遅れて招集されたこともあり、自分には関係ないものと思っていましたが、縁あって金沢桜丘高校へと進学をすることになり、インターハイに向けて剣道一色の生活を送りました。

練習試合をしても負けることがほとんどなく、チーム全員が団体での優勝をするつもりでした。しかし、今思えばものすごいプレッシャーがあったのだろうなと思います。団体は県内大会の準々決勝でチームは敗退してしまいました。すでに個人戦での出場権を得ていましたが、本大会での団体優勝を目指していたので非常にショックでした。

③石川インターハイにご自身の学校の選手が出場することについて

再び地元でインターハイをするというチャンスと、再び母校でインターハイ出場を目指すことができるというご縁もいただいたと感じながら、これまで生徒や先生方と一緒にここまでできました。

④今回のインターハイへの意気込み

できる限りのことをして万全を期してインターハイに臨み、石川県選手全員の活躍を見たいというのが本音ですが、コロナ禍によって遠征や練習試合もできないという中でインターハイに臨まなければならず、本当の地力で立ち向かっていかなければなりません。これまでとは違う形での取り組みや、新たな取り組みで臨まなければならないですが、その中であっても、最後の最後まで悔いの残らない戦いをしたいと考えています。

⑤選手へのメッセージ

自分の力で勝ち取った出場権なので、思い切って試合をしてもらいたいです。選手はこれまで多くの方に支えられ、協力していただいたということを感じており、感謝の気持ちを返すという気持ちで試合をしたいと言っていました。支えてくれた周りのみんなが嬉しい顔になるような試合が恩返しとなると思うので、そういう試合を、悔いが残ることがないようにしてもらいたいです。

⑥先生にとってインターハイ、剣道とは？

剣道には感謝しかありません。剣道のおかげで様々な経験をさせてもらい、自分を成長させてもらってきました。大変なことや嫌なことも多くありますが、最後に終わってみると、やっぱりやってよかったなと思わせてくれるものです。最終的にそういう気持ちに向かわせてくれているのが剣道なのかなと思います。